

難治な皮膚の深い傷(深達性創傷)に癒着せずに早期治癒可能な特性を有する

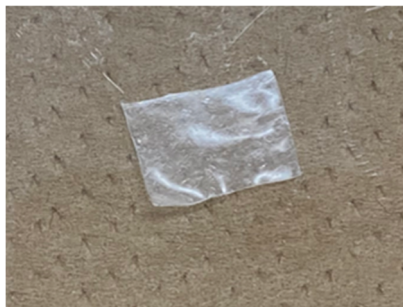
新たな創傷被覆材についての山形大学との共同研究に関するお知らせ

本件のポイント

- (1) 近年、高齢化に伴う褥瘡や糖尿病患者等の増加により、その傷口に貼る高機能な創傷被覆材のニーズは高まっている一方で、深部の創傷(深達性創傷)では、傷口より多量の滲出液が発生し、又、その癒着により日々貼替が必要なことや、治癒に長い期間を要することから、既存の創傷被覆材では十分な対応ができていないのが現状である。以上のことから、現在、傷口に対する癒着がなく連続貼付が可能であり、また、深達性創傷も含め、早期な治癒効果が期待できる新たな創傷被覆材の開発が求められている。
- (2) 山形大学学術研究院の山本修教授は難治の深達性創傷の治癒に十分に対応できる新たな創傷被覆材の創製に成功したため、テイカ製薬は山本修教授と新たな創傷被覆材に関する共同研究契約を2025年2月に締結した。
- (3) 本材は、グルコース/マンノースからなる多糖製結晶質創傷被覆膜であるが、そのシンプルでありながらも特殊な結晶構造により、皮膚の傷口(難治性の深達性創傷)に対する癒着がないことに加え、その調湿性により、従来のハイドロコロイド製医療用創傷被覆材に比べ顕著に早く治癒できること、また、その効果はショ糖を含有することで更に増強されることも基礎試験で確認されている。
- (4) 今後、テイカ製薬は、山本教授と共に、本品の実用化に向けた共同研究を進めていく予定である。

詳細につきましては、こちらをご確認ください。

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/information/press/20250410/01-82/>



山本修教授について

- ・山形大学 学術研究院 大学院理工学研究科 教授(生体機能修復学研究室 主宰)
- ・研究テーマ:再生医学・材料工学を基盤として臨床医学に貢献する総合研究
- ・専門分野:移植材料, 再生医工学

研究室 URL ; <http://ymlab.yz.yamagata-u.ac.jp>

業績 URL ; http://yudb.kj.yamagata-u.ac.jp/html/100000460_ja.html?k=山本修

本リリースに関するお問い合わせ先

会社ホームページ <https://www.teika.co.jp/>

担当 研究開発本部/事業開発本部

執行役員 野村伸彦

E-mail ; tssougou@teika.co.jp

以上